



きずな

2011年
(平成23年)

6



ともに
輝く時間ときを求めて

特集テーマ
女性



② データで見る兵庫県の男女共同参画

③ とともに働きやすい社会をめざして
ー ダイバーシティ・マネジメント ー
三崎秀央さん(兵庫県立大学経営学部教授)

④ 従業員のニーズにこまやかに対応し
だれもが長く働ける職場に
山陽特殊製鋼株式会社(姫路市)

⑤ DVのない社会の実現をめざして
ひょうごDV被害者支援連絡会(HYVIS)

⑥ まちのKIZUNAレポート
赤穂らじお(赤穂市)

⑦ WATCH
女子学生の保守化と男女共同参画社会
片桐新自さん(関西大学社会学部教授)

⑧ 情報ぷらざ

6月23日～29日 男女共同参画週間

「男女共同参画社会基本法」の目的と基本理念に関する国民の理解を深めるため、同法が公布された6月23日から1週間を設定。その間に男女共同参画社会を促進する各種行事などが全国的に実施されます。

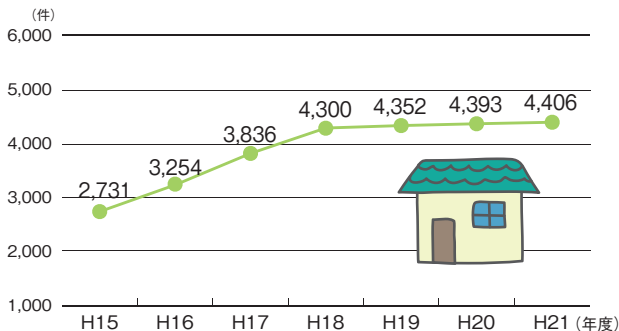


データで見る兵庫県の男女共同参画

平成22(2010)年度ひょうご男女共同参画白書から

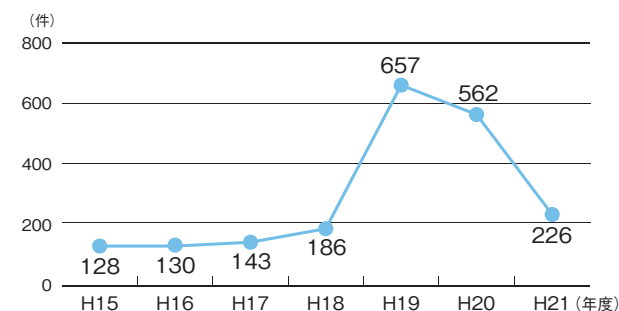
近年、女性が働きやすい職場は増えてきましたが、その一方でDVやセクハラなどの被害が後を絶ちません。
また、仕事と生活の両立に関しては理想と現実のギャップを感じている人も多いようです。

配偶者等からの暴力(DV)相談件数



平成21(2009)年度に、県の配偶者暴力相談支援センター(県立女性家庭センター)、県立男女共同参画センター、県子ども家庭センター、健康福祉事務所、県警察本部等に寄せられた相談は合計4,406件に上ります。

職場におけるセクシュアル・ハラスメントに関する相談件数

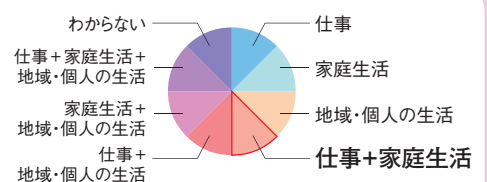


企業のセクハラ対策は進んでいますが、男女雇用機会均等法にかかわる相談件数のうち、セクハラ関連は約5割を占め、依然高水準にあります。

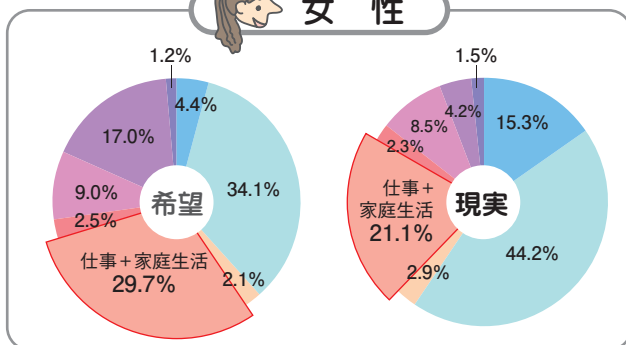


生活の中での仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度について(全国)

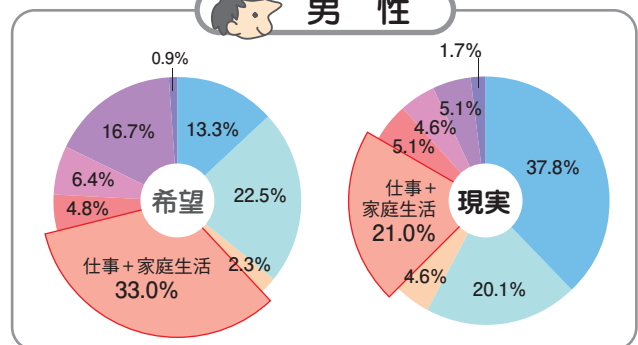
男女ともに仕事と家庭生活をバランスよく両立したいという希望を実現できていません。



女性



男性



内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21(2009)年10月調査)より

男女共同参画社会の第一歩は、男女が互いの違いを認め、尊重し協力し合うことです。
その実現をめざして、今一度、自分に何ができるのかを考えましょう。

メッセージ

ともに働きやすい社会をめざして
—ダイバーシティ・マネジメント—兵庫県立大学経営学部教授 ^{み さ き}三崎 ^{ひ で お}秀央さん

多様性が生む創造性

最近、ホームページの採用欄に「ダイバーシティ」という言葉を載せる企業が増えてきました。ダイバーシティとは「多様性」という意味です。性別や年齢といった人口統計学的な多様性もあれば、パーソナリティや知識といった内面的な多様性もあり得ます。ダイバーシティ・マネジメント（以下DM）とは、これらの多様性を活かす経営を意味しています。

なぜ、DMが注目されるようになったのでしょうか。ややステレオタイプではありますが、欧米に追いつくことを目指してきた時代の日本において、重視されてきたのは均一性・効率性です。向かうべき方向性（手本となる欧米）が見えている場合、共通性の高い人々たちによるチームワークは効率的な組織を生み出し、重要な成功要因となりました。しかし近年のグローバル競争で勝ち抜くためには、創造性の発揮が求められます。模倣する対象が無くなり、今までにない新しいものを作り出すことが競争優位の源泉となっているからです。

経営学の組織行動論という研究分野で

兵庫県では「男女共同参画社会基本法」や「ひょうご男女共同参画プラン21」などに基づき、職場や生活の場での共同参画を推進しています。しかし、「男は仕事、女は家事」といった固定的な性別役割分担意識のもと、女性が十分に社会参画できないといった問題、ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメントなど女性への人権侵害が根強く残っています。

性別に関係なく、職場、家庭、地域とともに力を合わせ、生きがいを実感できる社会を実現するためには、県民一人ひとりが関心を持ち、その取り組みを進めていきたいと思います。

は、創造的な組織には、①より多くの知識・情報を活用する、②知識・情報、解決策をより多くの視点から吟味する、③異質な情報やものの見方から新しい発想が生まれる、といった特徴があることがわかっています。これに照らし合わせてみると、組織成員が均一である場合には、知識も考え方も広がりがなく、新しい発想が生まれにくいことがわかります。この点で、創造的な組織は、より多様な人材の相互作用によって生まれると言えるのです。

男女共同参画社会への貢献

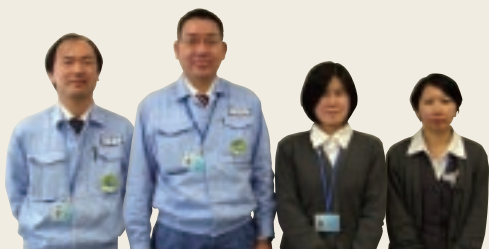
10年ほど前までは、女性の活用は企業の社会的責任として受け止められることが多くいうでした。しかし、企業における多様性が創造的な成果につながるとすれば、企業にとっても積極的に推進するべきこととなります。これが、採用のホームページにも表れているのではないのでしょうか。

多様性の源泉は、年齢や性別のほかに、価値観や宗教、知識、性格など、多様なものがあります。仕事に対する考え方をとってみても、仕事一筋に生きたい人もい

れば、仕事以外の時間を大切に考える人もいます。また、仕事一筋に生きたいのは山々であるが、家庭の事情などによってそうできない人もいます。これらの違いは、性別によつて生じるものではありません。この点で、DMの基本は、男女を同列に扱うというものでもなく、男女を区別するのでもなく、個々人の多様性を認めるところから始まります。DMのポイントは、個人個人の能力をどうすれば最大限発揮できるのかを考えることにあります。逆説的な言い方になりますが、女性だけに焦点を当てないで、創造性と個人の能力発揮に注目することのようなマネジメントの考え方が定着すれば、男女共同参画社会も自然と実現するのではないのでしょうか。

プロフィール

1971（昭和46）年生まれ。東京都出身。神戸商科大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。福島大学経済学部助教授を経て、2009（平成21）年から現職。経営学博士。日本労務学会賞（研究奨励賞）などを受賞。著書も多数あり、最近は『人的資源管理—理論と実践』（文眞堂）を共訳。



取材に協力してくれた人事・労政部の増田伸也さん、吉竹さん、
安達恵理子さん、総務部の見越千絵さん(左から)



出産や育児、介護に関する
支援制度のガイドブック

従業員のニーズにこまやかに対応し だれもが長く働ける職場に

山陽特殊製鋼株式会社(姫路市)

少子高齢化が進む中、企業が抱える問題の一つが労働人口の減少対策。特に製造現場における人員の確保は重要な課題になっています。姫路市にある山陽特殊製鋼株式会社は「女性にとって働きやすい職場とは、男性にとっても働きやすい職場である」をスローガンに、男女の区別なく能力を発揮できる職場づくりをめざし、人員確保と労働環境の改善に取り組んでいます。

男性中心の職場に女性が躍進

同社では女性従業員の比率を2028(平成40)年3月末までに全体の25%(現在10%)に引き上げるという目標を設定しています。その達成のために設けているのが、社長直轄の「女性活躍サポートワーキンググループ」と、各職場とワーキンググループをつないで情報や意見を収集、提供する「女性活躍サポートネットワーク」です。

両者の話し合いから生まれた改善事例として、帰宅が夜遅くなる女性従業員のため通勤路に街灯を設置、妊婦または育児や介護を優先せざるをえない社宅住居者に自動車通勤の認定、子どもの学校行事への参加に配慮した半日有給休暇制度の導入などがあります。同社は、性別に関係なく一人ひとりの違いを認め、たうえで、責任を持って仕事に取り組める環境整備を大切にしています。このような改

善策は従業員からも好評だといいます。

製造現場では3交替制で女性従業員も活躍しています。「昔は男性の職場というイメージがありましたが、現在ではともに一生懸命に取り組むという雰囲気生まれ、成果にも好影響を与えています」と人事・労政部長の吉竹広喜さんは話します。

管理職を対象に外部講師を招いてワークライフ・バランスの講演会を開催したり、妊娠中の女性従業員のために工場内に休憩室を整備したりと、だれもが働きやすい環境づくりに余念がありません。その成果もあり、最近の就職希望者の中には長く働き続けたいことを理由に、同社に興味を持ったという人も多いそうです。

仕事と生活の両立を推進

同社では、男性従業員にも育児休暇の取得を推奨し、夫婦そろっての子育てを促



近年は製造現場で活躍する女性も増えてきました

しています。同社は昨年度、これまでの取り組みが認められ、多様な働き方や仕事と生活の両立推進の仕組みを先導的に取り入れている企業として「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」(ひょうご仕事と生活センター主催)を受けました。

結婚、出産、育児などのライフステージに柔軟に対応しながら、各部門が必要とする人材をいかに確保するかが今後の課題といえます。他社の事例も参考にしながら、よりよい職場環境づくりを進めていきます。



DVのない社会の実現をめざして

～ひょうごDV被害者支援連絡会の活動から見てくると～

ひょうごDV被害者支援連絡会(HYVIS)

DV(ドメスティック・バイオレンス)と聞いて、どんなことか思いませんか？ DVは、殴る・蹴る、ののしったり、人格をおとしめたりする、性行為を強要したり、生活費を渡さない、などのさまざまな手段を使って被害者を支配し、コントロールすることです。国の調査によると3人に1人の女性がDVを受けたことがあり(2008年)、20人に1人が命に危険が及ぶほどの暴力を受けたことがある(2000年)という結果が出ています。

一方、被害を受けている人は、親族、友人などに約30%ずつの人が相談していますが、各相談機関には1/3程度しか相談しておらず、どこにも相談しなかった人が約50%います。2001年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)が成立し(その後2回改正)、それに基づき兵庫県でも基本計画が策定され、被害者支援、啓発などが取り組まれています。

また、DVの目撃は子どもへの心理的虐待にあたると児童虐待防止法にも明記されました。子どもも直接暴力を受けていなかったとしても、心に深く傷を受けており、心身のケアが必要です。

私たちは、それぞれの団体が、電話相談や、シェルターの提供、フェミニストカウンセリング、外国籍の人への支援、DV防止活動などを行っています。活動を通して見えてくるのは、被害者が新たな生活を始めるには、住居、当面の生活費、仕事、子どもの保育所、学校など、生活全般の立て直しが必要で時間もお金もかかる

ということ。また心身ともに傷ついていてその回復への長い期間の支援が必要だということ。支援策が徐々に拡充されてきてはいますが、個別の相談を受けているとさらなる支援の拡充が必要だと思えます。また、外国籍の人や障がい者、高齢者など、それぞれのニーズに応じた支援も求められています。そして、暴力のない社会をつくるためには、暴力の未然防止のために若い人へのデートDV防止啓発の取り組みの拡充も求められています。

私どもも、今後よりよい支援を求めて提言やネットワークの拡充を行っています。

もしあなたが相談を受けることがあったら、よく相談してくれたね、これまで大変だったね、とその人の言葉を信じて、相談機関の情報を伝えてください。

DVは犯罪であり、重大な人権侵害であるということが地域でも広く認識され、DVを許さない取り組みに多くの人や機関が関わり、取り組みが広がっていくことを願っています。

ひょうごDV被害者支援連絡会(HYVIS)

兵庫県内のすべての女性と子どもが、安心してすこやかに暮らせる環境作りに貢献することを目的に、2003年5月から活動しています。DV被害者支援活動を行っている民間の相談機関と個人が、当事者の立場に立ったよりよい支援のために、情報交換や学習会、提言活動などを行っています。

【事務局】

特定非営利法人フェミニストカウンセリング神戸
TEL: F A X 078 (360) 6211

じんけんガイド

DV被害に関する相談は、下記のひょうごDV被害者支援連絡会の相談窓口へ

団体名	相談日・時間	活動内容	電話番号
アジア女性自立プロジェクト	水曜 11:00～17:00	電話相談、啓発活動	078(734)3633
NPO 法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	月曜・水曜・金曜 10:00～16:00(電話相談)	電話相談、シェルター運営、 DV・デートDV 啓発講座	078(731)0324(電話相談) 090(8196)1702・1705 (シェルター利用相談)
NGO 神戸外国人救援ネット	金曜 13:00～20:00	多言語生活相談、 同行支援など	078(271)3270 078(232)1290(相談)
W・Sひょうご	木曜 12:00～17:00	電話相談、シェルターの提供など	078(251)9901
特定非営利活動法人 フェミニストカウンセリング神戸	月曜 13:00～16:00 月曜～土曜 10:00～20:00	電話相談(無料) カウンセリング(有料)	078(360)5030 078(360)6211
Cサポート・こうべ	火曜・木曜 15:00～19:00 第2・4土曜 11:00～18:00	デートDV防止教育、 防止啓発講座	078(928)2628



地域密着の番組でまちの活性化を

赤穂らじお (赤穂市)



番組は「赤穂らじお」のホームページ(<http://ako.netradio.jp/>)で聴くことができます

女性たちの力で開局

義士と塩のまち赤穂市に昨年7月に開局した「赤穂らじお」は、スタッフがすべて市内在住の女性たち。地域密着型の番組でふるさとを元気にするとともに、市外の人にも赤穂の魅力を伝えたいと張り切っています。

赤穂らじおはAM局やFM局とは異なり、インターネットで番組を配信し、パソコンで番組を聴くウェブラジオです。ネット配信を採用したのは、取材の模様などを声だけでなく、画像も交えて視覚的に伝えることで、リスナーにより身近に感じてもらえる利点があるからです。開局時の設備投資を簡素化できるのも大きな魅力でした。

赤穂市にはこれまでケーブルテレビなどの地元放送局がありませんでした。代表の水野香保里さんは「赤穂らじおを通して、コミュニティづくりをお手伝いし、地域の人々のつながりを

広げ、まちの活性化につなげたい」と意気込みます。番組制作には、3年前に開局した相生らじおの代表、出口勤芳さんもサポート。「地域密着の情報ツール、コミュニケーションツールとしての役割を果たしていってほしい」と話します。

活動は充実の一途を

スタッフはそれぞれ仕事をしているので、番組収録は日曜を中心に月1、2回行います。あるスタッフは番組制作に生き生きと取り組む姿に、家族から「お母さん、すごい！」と驚かされたそうです。現在放送しているのは「赤穂探検隊」や「赤穂ミュージックストリート」「輝け赤穂の星」など多彩です。地元のイベントやおすめスポットなど耳寄りな情報もしっかりカバーしています。また、姫路市にある「FMゲンキ」で赤穂の旬の情報を伝える「しおかぜモーニング」という番組(偶数月第一土曜の午前8時～8時30分)も担当しています。

昨年度、赤穂らじおの取り組みは赤穂市の「観光アクションプログラム」に認定されました。地域に根差した番組作りは多方面から評価され、水野さんたちは兵庫県立大学で地域コミュニケーションをテーマに特別講座の講師も務めました。「これからは動画の配信や他局とのコラボレーションなどによって、赤穂の魅力を多くの人たちに伝えたいです」と水野さん。一般市民に取材などで番組制作に参加してもらうことも検討中だとか。地域により親しまれる番組作りをめざし、その挑戦は始まったばかりです。



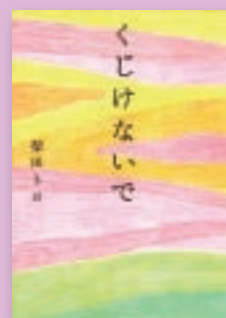
収録現場は和気あいあいとした雰囲気
水野さんの言い間違いに
周りから笑いが起こります

詩人、柴田トヨさんのベストセラー。柴田さんは今年100歳で、90歳代に入ってから息子の勧めで詩作を始めました。この詩集には、日常生活の中で感じる「いのち」の息吹を取り上げた数々の作品が収められています。長い人生の中で感じた親子のきずな、家族を取り巻く社会とのかわり、母として女性として一人の人間として感じた喜怒哀楽を素直な言葉で表現し、読む人に感銘と勇気を与えてくれます。

これまでに柴田さんの足跡や詩にまつわるエピソードなどは、ラジオやテレビでも紹介されました。最近では東日本大震災の被災者へ勇気と希望を伝える詩も発表しました。心に残る言葉は、この詩を読むすべての人々に「今」の困難を乗り越え、「未来」に向かって生きる「希望」と「元氣」を与えてくれます。

くじけないで

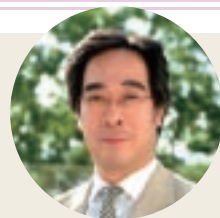
柴田トヨ著(飛鳥新社)



きずななライブラリー
～おすめの二冊～

女子学生の保守化と男女共同参画社会

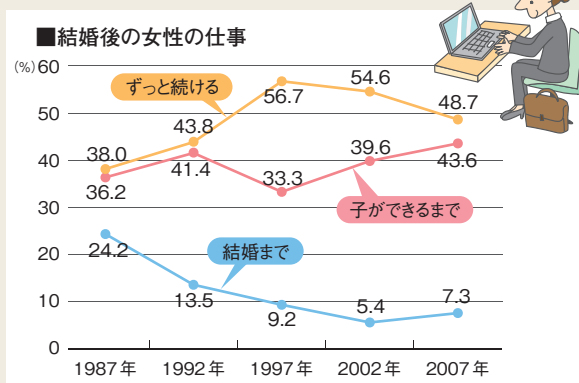
関西大学社会学部教授 片桐 新自さん



変化する若者の意識

私は1987(昭和62)年から5年おきに、関西の複数の大学で学生たちの価値観や社会意識に関する調査を継続してきており、その中には、性別に基づいて構築されてきた慣習に対する学生たちの意識を尋ねた質問があります。

たとえば、結婚の際に夫婦の名字はどうしたらよいと思うか、女性が仕事を持ち続けることをどう思うか、さらには家事や育児の分担はどうすべきかといった質問です。その回答傾向の変遷を見ると、2000年前後を境に学生たちの意識が変わってきているのがわかります【グラフ参照】。1980年代から90年代は、性別に基づいて構築されてきた古い慣習に対する否



次世代に期待するもの
私は、そうしたデータを見、また女子学生から直接「理想は専業主婦で、子どものために家にいたい」という意見を聞くたびに、こう言っています。「確かに親になることは素敵なことだけれど、それを優先するために、仕事をやめるなんて発想をしてはだめだよ。男も女も、仕事も家庭も両立できる社会に日本を変えていかなければならないのに、次世代を担う君たちが、今の日本社会では両立は難しいので、なんて言っ

定的な意識が確実に増えています。2000年代に入ってから伸びが止まり、2007(平成19)年に実施した5回目の調査においては明らかに逆転傾向が生じていました。その逆転の主役は、男子学生ではなく女子学生です。男子学生は「草食系男子」が多くなっており、古い「男らしさ」の価値観を継承しておらず、家事も育児も担う気持ち当たり前に持つようになっています。他方、女子学生の場合、その少ない割合が、雇用機会均等法第1世代がバリバリ働き続けて独身のまま40歳代に突入した姿を見ながら、「結局、仕事にこだわらず、結婚して子を持った女性の方が幸せなのだ」と結論づけるに至っています。

いたら、社会の仕組みは永遠に変わらなくなってしまうよ。私たちは仕事も続けたいし、家庭も持ちたいと言いつつ続けたいのだよ」と。

私の言葉を聞いている女子学生たちの顔には「理想はそうかもしれないですが」と書いてあります。でも、こうした保守化と言っている女子学生たちの意識も、東日本大震災で変わる可能性があるのではないかと少し期待しています。豊かすぎ、平和すぎた日本の中では、私生活中心主義で楽しく過ごするのは当たり前で、そのためには専業主婦がいいという選択になっていたわけですが、今回の大震災を経て、多くの人の心に自分もできる何かをしなれば、という思いがふつと湧いてきています。働くこともそのひとつです。若い学生たちは時代を感じ取る素直な感性を持っています。その学生たちにとって、今回の大震災は生き方を見直すきっかけになりうるものではないかという気がしています。

プロフィール

東京都出身。社会学者。社会学は机上の学問ではなく、「役に立つ学問」であることを常に主張し続けている。主な著作は『不安定社会の中の若者たち―大学生調査から見るこの20年』(世界思想社)、『歴史的環境の社会学』(新曜社)、『社会運動の中核的理論―資源動員論からの展開』(東京大学出版会)などがある。

監督・脚本・編集：是枝裕和

出演：前田航基、前田旺志郎、大塚寧々、オダギリジョーほか 128分
問い合わせ▶シネ・リーブル神戸 TEL 078(334)2126

試写室

奇跡



両親が離婚し、小学6年生の兄・航一は母親と祖父と鹿児島で、4年生の弟・龍之介は父親と博多で暮らすことに。兄弟の夢は再び家族4人で暮らすこと。祖父は商店街の仲間に促され、九州新幹線の全線開通に合わせて「かるかん作り」に取り組み、母親はスーパーのレジの職に就きます。一方、父親はミュージシャンの活動をしています。

ある日、兄は九州新幹線の全線開業の日、博多発と鹿児島発の一番列車がすれ違う瞬間に奇跡が起こり、願いがかなうという情報を耳にします。弟や兄弟それ

ぞれの友人を誘い、冒険に出ます。担任教師や警察の目をかわした後、親切な老夫婦に出会った彼らは、いよいよ奇跡が起こる瞬間を迎えます。

大人たちは介入し過ぎず、子どもを信じて見守ることが子どもたちの内なる力を見事に引き出すことにつながります。祖父の作る「かるかん」の味、「ぼんやり(やけどクセになる)」が通奏低音を奏で、両親の離婚があっても、子どもはたくましく成長するのだと痛感します。

6月11日からシネ・リーブル神戸(神戸市中央区)他で公開。

「東日本大震災兵庫県義援金」を受け付け中です

東日本大震災で被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げます。
阪神・淡路大震災の被災地から温かい支援を送りましょう。

兵庫県や兵庫県議会、地方4団体が中心になって、民間団体の協力も得て「東日本大震災兵庫県義援金募集委員会」を設立し、被災者支援のための義援金を受け付けています。阪神・淡路大震災では国内外から多くの支援をいただき、互いに助け合うことの大切さを学びました。この教訓を生かし、温かい支援を送りましょう。

受付期間／6月30日(木)まで

募金方法／下記口座にお振り込みいただくか、募金箱(県機関や市町機関などに設置)をお願いします。

郵便振替口座:00910-3-322340

口座名義:東日本大震災兵庫県募集委員会

※振込手数料が別途必要です

※この口座は税法上の寄附金控除、法人税法上の損金算入の対象となります

問い合わせ窓口／東日本大震災兵庫県義援金募集委員会事務局(兵庫県防災企画課内)

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL 078(362)9898・9870(9:00～18:00) ※当分の間は土曜、日曜、祝休日も対応

FAX 078(362)9911・9914



イベントガイド

神戸地方法務局・兵庫県人権擁護委員連合会 全国一斉 「子どもの人権110番」強化週間	人権擁護委員・法務局職員が「いじめ」や児童虐待など、子どもに関するさまざまな人権問題について電話相談を受け付けます。秘密は厳守します。 ●期間／6月27日(月)～7月1日(金)8:30～19:00、7月2日(土)・3日(日)10:00～17:00 ●相談電話番号／TEL 0120-007-110(全国通話無料)
小野市男女共同参画センター 講演会	●日時／6月26日(日)14:30～16:30 ●場所／小野市うるおい交流館エクラホール ※神戸電鉄小野駅から、らんらんバスで約7分 ●テーマ・講師／「デートDVと恋愛」上村茂仁さん(ウィメンズクリニック・かみむら院長) ●問い合わせ／小野市男女共同参画センター TEL 0794(62)6765(要申し込み)
加古川市 明日をひらく人権のつどい	●日時／6月26日(日)14:00～ ●場所／加古川市民会館 ※JR「加古川駅」からバス「市役所前」下車すぐ ●内容／コンサート「心に届く愛の音色～女と男のハーモニー」 出演:ESPERANZA エスベランサ ●問い合わせ／加古川市人権施策推進課 TEL 079(427)9356(要申し込み)

人権啓発バスが運行中です

人権啓発のラッピングバスをご存じですか。絵本作家、永田萌さんによる妖精たちがクローバー畑で遊んでいるイラストが車体側面に描かれ、道行く人たちの目を楽しませています。阪神(阪神バス)、東播磨・中播磨・西播磨(神姫バス)、淡路(淡路交通)の各地域で運行中です。



ハーフタイム

毎月、新刊図書を紹介していますが、今月号の「くじけないで」を決めるにあたり、書店や図書館で何冊かの詩集を見ていると、言葉の持つ力の大きさをあらためて実感します。一言一句が人の心を動かし、考えるきっかけを与える。その影響の大きさは測り知れません。

対して本誌「きずな」の編集においても、多く人から意見が寄せられ、あらゆる立場の人々に配慮しながら作っていますが、後日読み返すと、不十分な箇所が多々あり反省することしきりです。詩集にある「ことば」という作品を読んであらためて、そのことを考えさせられました。寄稿や取材を受けてくださった皆さんの思いを間違いなく県民の方々に伝えるため、勉強の日々が続きます。(田中)